



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2025 年 1 月 17 日 (2024 年度のチャレンジプラン)
プラン名	「まなっぷ」で「こころ」を育む減災教育
実践団体名	ゲンサイデイズ
代表者名	細谷 真紀子
電話番号	090-1433-3811
メールアドレス	gensaidays@gmail.com
実践団体の説明	防災・減災活動は未来の笑顔の為にあるということを信念に、防災・減災を手段に人づくり・まちづくりに関わる活動を行っています。人とまちをつくる為に必要な防災・減災の視点・手段を基に、より良い未来の為のコミュニティづくりの為に様々な人、団体と共に防災教育を行っています。
所属メンバー	代表 細谷真紀子
活動の本拠地	山形県山形市
活動開始時期・結成時期	2016 年
過去の活動履歴・受賞歴	2021 年～ やまがた社会貢献基金事業 山形県内や東北地方を中心に学校やコミュニティ（行政や自主防災会、各種団体等）に対する防災教育を実施。

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 3. 保護者・P T A 7. 企業・産業関係 8. ボランティア 13. 個人
プランの運営側の人数（実数）	約 12 人
プランの活動地域	山形県山形市
プランの防災教育の対象者	4. 小学生（中学年）
防災教育の対象者的人数（実数）	約 200 人
プランが対象とする災害	1. 地震 3. 風水害 4. 土砂災害



	6. 雪氷災害 8. 火災 9. 災害全般
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 12. 体験学習
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 8. 国・地方公共団体 10. 企業・産業関係 11. ボランティア 16. 個人
実践にかかった金額	円 非公開（個別にお問い合わせください）

プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4月	前年度より学校調整	前年度より学校調整	－
5月	↓（以下 CP 該当事業のみ）	↓（以下 CP 該当事業のみ）	－
6月	↓	↓	－
7月	（要領通知）	仮教材作成	－
8月	日程調整	団体内教材確認・調整	－
9月	日程最終調整	授業内容再調整・修正	
10月	－	授業実施	授業実施



11月	–	授業実施	授業実施
12月	–	授業実施	授業実施
1月	–	次年度調整 (CP 外)	まとめフォローアップ
2月	–	次年度調整 (CP 外)	まとめ
3月	–	次年度調整 (CP 外)	報告会



実践したプランの内容

プラン全体の概要	<p>学校安全をコミュニティスクールとして地域と共に育んでいくため、学校・地域・子ども・企業など多様な関わりを持ち、持続可能な防災教育になるよう、中山町モデル（R3防災教育CP）を参考に実施、当該校として防災教育元年とする。防災教育CPとしては、4年生で実施（他学年は他事業での実施とし、中山町モデル同様全学年で実施する）。4年生では総合学習として実施するが、その中でゼンリン「まなっぷ」はプログラミング学習として、防災に不可欠な児童の探究的な思考の変化や育成の一助とする。また授業成果はまとめとして地域に展開し、地域の防災啓発としての役割を持たせ、学校安全に関わる人材を増やしていく。</p>
プランの「チャレンジ」の結果	<p>中山町モデルは、防災教育が求められていない学校でも、学校と地域・民間など多様な関係者がWINWINな状況で実施ができるという実証ともなった。また民間企業や地域推進委員さんなどとのやり取りをするために、民間と学校が協働できることは今般の働き方改革にも良い影響を与える、先生方とのやり取りを的確に実施することで、カリキュラムの流れに沿って、授業プランの内に無理なく取り入れられるという成果を得られた。何よりもこれまでの育成環境に防災意識が薄かった子どもたちが積極的に防災を楽しみ、身につけ、地域を知ることが出来たことが大きな成果であると感じる。</p>



実践内容・方法・成果	<p>総合学習ではあるが、防災の特別授業に特化するのではなく、学校・先生方が求めるカリキュラムの中で必要な事項をしっかりと満たし教科横断的な関わりを持った内容とした。またその上で防災教育上不可欠な地域防災のスタンダードや学校安全としての視点を付加していく。その為には外部の人材が、対象児童のカリキュラムの内容やねらいをしっかりと理解し、学校外の目的にも添う防災教育コーディネーターを活かした内容になっている。</p> <p>何よりも本質的な部分で先生方が「来年度も実施したい」と思っていること、子どもたちの他の学習の中でも自発的に防災意識が見られていることがゴールとしての成果ではなく、スタートとしての成果ではないかと思う。</p> <p>「こころ」を育むということは、思いやりの様な抽象的なことだけではなく、今、子どもたちに求められる探究的思考や学習への広い興味を持たせることにあるが、現在、まとめて向けて大いにこの姿が見られる。</p>
------------	--

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u>	学校側との連絡を密にし、関係する教育委員会への報告等も細かく丁寧に行った。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u>	学校運営協議会を利用し、防災教育の内容を知っていただき、授業を通覧頂いた。自治会（＝自主防災会）だけではなく民生児童委員、保護司、地域活動推進員、PTAなど関係者が一堂に会する場で防災教育をご理解いただき、意見交換できる場づくりを行った。
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	上記1・2同様。またICT支援員の協力や民間企業の参画についてもコーディネーターと学校が軸となり推進できた。
4. 【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	
5. 【準備段階】 <u>準備時間を確保</u>	



する際の工夫	
6. 【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	
7. 【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	
8. 【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	
9. 【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	
10. 【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	
11. 【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	
12. 【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	
13. 【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u>	
14. 【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	同様の学校教育の皆さんと共有したいことや課題の相談がしたかったが、実施者の属性でグループ分け頂いていたので課題の共有にズレがあったのが残念であった。
15. 【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	
16. 【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	
17. 【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	
18. 【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	



今後の活動予定・今後の展開	来年度以降も当該校では実施継続。また被災地での実施を予定している。このような実施を更に元となる中山町にフィードバックして持続可能なより良い防災教育の循環を作る。
---------------	--

その他（PRポイントなど）	
---------------	--

チャレンジプランを実践しての感想

チャレンジプランを実践しての感想・想い	突破口としてのCPの存在は心強い。これを多方に知つていただくためにどのような実施主体なのか、メンバーではなく運営が見える化されれば、何も繋がりが無く実施申込する側から見ると一層力強いと思う。
---------------------	---